

◎企画—貯蓄増強中央委員会

◎製作—株式会社 桜映画社

児童劇映画

◎規格—16ミリ・カラー／31分

◎価格—16ミリ=200,000円 VTR=55,000円



ぼくは負けない



おもちゃ図書館が開いたおもちゃ病院

教育映画祭優秀作品賞
文部省選定



◎—製作のねらい

いじめっ子、いじめられっ子が大きな社会問題になっている。子供は家庭・学校・地域社会という、それぞれの環境の影響を受けながら成長している。従って子供の健全な成長のためには、どのような生活環境、教育環境を整えるかが重要な課題である。

この映画は、こうした問題を解決するには何よりも地域の人びとの子供への積極的な働きかけが必要であると訴えている。即ち、子供たちに、自己潜在能力を自覚させ、自信をもって生きていく気構えを確立させるとともに、相手の心をも理解し、思いやりの心をもって協力していく態度を育むよう、いろいろな機会を通して働きかける社会的雰囲気づくりが大切と呼びかけているのである。

◎製作—株式会社 桜映画社

〒160 東京都新宿区西新宿1-22-1 スタダードビル
TEL 03(342)5768 FAX 03(346)1844

◎協力—小諸市教育委員会／小諸市社会福祉協議会／小諸おもちゃ図書館／小諸市



帰り道、修は本多さんと話した



おもちゃみこしをかつぐ修たち

◎—あらすじ

●気の弱い修(小5)は、学校ではいじめられっ子。ブラブラ歩いているうちに、賑やかな福祉会館の前に止まる。土曜日で「おもちゃ図書館」の日。中は、小さな子供達でいっぱい。体の不自由な子には高校生のボランティアが面倒をみている。修も偶然ここで、森さんと本多さん達のおもちゃ作りを手伝うことになる。

●修は家にあった木切れで舟作りに熱中する。土曜日、舟は出来上り、子供達は池に浮かばせて大はしゃぎ。ところが、浮かす順番で争いが起こる。かばうつもりでいった修のことは、足の不自由な哲ちゃんは、「足が悪いからってかわいそうなんかじゃないよ！同じだよ！」と激しく抗議する。修の小さな胸にはこのことばがこたえた。

●本多さんから舟作りがうまいとほめられ自信を持った修は、おもちゃ図書館での手伝いに精を出す。修の顔には明るさが戻ってきた。

●いじめっ子の健太達は、近頃修の様子が変わると後をつける。福祉会館で修が小さな子供を相手に生き生きと活躍しているのを見て、馬鹿にながらも心をひかれる。

●そんなある日、修は直してやる約束の玩具を健太達にこわされ、「弁償すればいいんだろう」という健太に、怒りのあまり「栄ちゃんが大事にしていたんだ。弁償ですむんなら直したりしないよ」と涙声でくっつかかる。健太達には返す言葉もなかった。その帰り森さんの工房に誘われた健太達は、「ものを大切にすることは、それを作った人達の心を大切にすることだ」と教えられる。

●町のお祭りにおもちゃ図書館もみこしを作ることになった。健太達も飾りものを集めて協力する。祭りの当日、揃いのハッピー姿で、おもちゃで飾られた風変わりなみこしをかつぐ修や健太達の姿があった。

◎—キャスト

修……谷口真一	本多……下條アトム
健太…小見浩昭	森……伊藤 博
昭彦…駒崎涼太郎	修の母…寺内よりえ
真悟…塚原靖章	栄……伊藤祐一郎
哲……岡村裕也	

◎—映画鑑賞のポイント

- ①問題の子供の特徴が端的にでている。こうした子供がどんなキッカケ(状況)でどう変わるかをよくみたい。
- ②森さんに声をかけられ手伝いはじめた修は、ノコヒキがうまいとほめられて心機一転のチャンスをつかむ。森さんたちの環境づくりについて考える。
- ③「哲ちゃんは足が悪いから」といった修に対し、「かわいそうなんかじゃない…」と厳しく抗議した哲ちゃんの気持ちと修の反省をどうみる？
- ④修がおもちゃ病院で手伝ったり、いったん捨てたプラモデルを修理する気になった動機は？
- ⑤栄ちゃんの玩具をこわした健太のいった言葉に激しく抗議した修の変わり方、勇気について考えてみる。
- ⑥健太達が森さんの工房で得た経験は、彼等の心情にどんな変化を与えたか。
- ⑦本多さんの「人間には得意不得意があるもの…」との言葉は、修の心にどうひびいたか。
- ⑧いったん放棄したみこし作りに健太達が、再び協力する気になったのはどうしてだろう？
- ⑨問題の多かった修や健太達の態度がここまで大きく変容したのはなぜか。子供のためのよい環境づくりに、森さんや本多さんのような気がばりがいかに大切かをしっかり把握したい。

◎—利用対象

小学生・中学生・青年・成人・父母

◎—用途

特別活動(学校映画会・道徳・ホームルーム)・子供映画会・親子映画会・地域社会活動

◎—スタッフ

製作—村山英治	音楽—三木 稔	編集—大坪隆介
脚本—花崎 哲	助監督—笠倉 隆	記録—坂本希代子
監督—村山新治	進行—東 克治	
撮影—江連高元	録音—清島竹彦	
照明—浅見良二	効果—片岡陽三	